

〈介護に関する意識調査データ〉

調査方法: インターネットリサーチ

対象: 全国の40代以上の男女 1,238名(男:740 女:498)

実施期間: 2018年9月21日(金)、22日(土) 総質問数: 27

調査結果

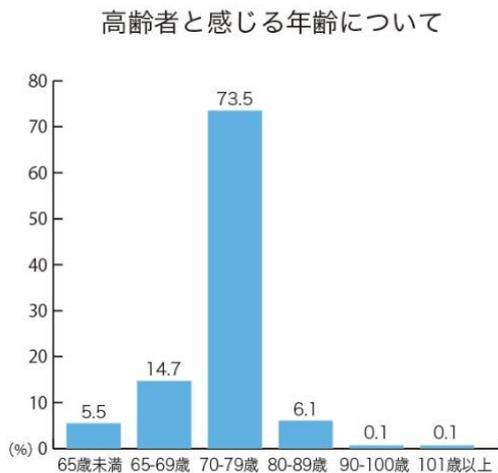
1. 高齢者の定義について

【「70代以上」で高齢者と認識】

・世界保健機関 (WHO)では、65歳以上を「高齢者」と定義しています。そこで、高齢者を指す年齢について尋ねたところ、**「70～79歳」という回答が7割以上**を占めました。また、65歳と答えた方は約14%に留まり、定義されている年齢と大きなギャップが生まれました。(表1)

・「何歳まで生きたいか」という質問に対しては、各世代で見ると、平均して80歳前後まで「生きたい」と希望していることがわかりました。また、高齢になるほど、その年齢が上がる傾向となりました。(表2)

(表1) Q.「高齢者」とは、何歳以上の人を指す言葉だと思いますか。



(表2) Q.あなたは何歳まで生きたいですか。

| (歳) | |
|-------|------|
| 60代以上 | 81.5 |
| 50代 | 80.6 |
| 40代 | 79.6 |

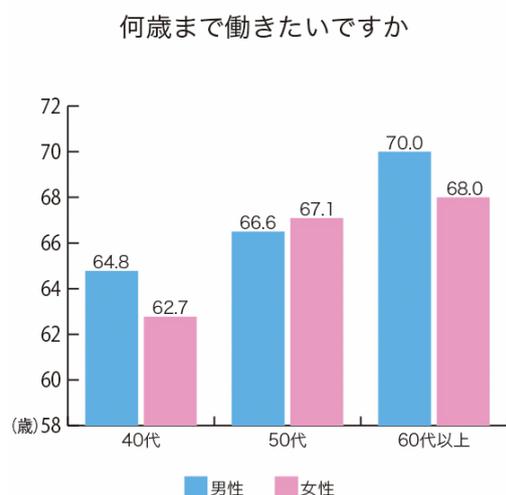
2. 高齢期の就労について

【高齢になっても就労意欲は衰えない】

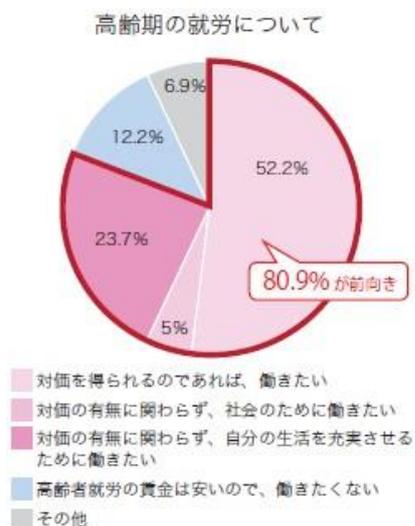
・男女ともに高齢になるほどリタイアを考える(た)年齢が上がる結果となりました。50代、60代以上では、実質的な定年となる65歳を超えても就労を望む方が多く、年齢による線引きにこだわらないという結果となりました。(表3)

・高齢期の就労意欲と対価については、回答項目に「働きたい」を含む項目を答えた方が約8割に上りました。そのうち、約3割は対価の有無に関わらず就労を望んでおり、高齢期の就労に積極的であることがわかりました。(表4-1、表4-2)

(表3) Q. あなたは何歳まで働きたいですか。



(表4-1) Q. 高齢期にあなたはどのような働き方を考えていますか。



(表 4-2)

| | 2018 年 | | |
|-------------------------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| 対価を得られるのであれば、働きたい | 52.2 | 53.6 | 49.8 |
| 対価の有無に関わらず、社会のために働きたい | 5.0 | 5.9 | 3.6 |
| 対価の有無に関わらず、自分の生活を充実させるために働きたい | 23.7 | 20.7 | 28.3 |
| 高齢者就労の賃金は安いので、働きたくない | 12.2 | 13.6 | 10.0 |
| その他 | 6.9 | 6.1 | 8.2 |

(%)

(表 5) Q. あなたが高齢期に働く上で、最も重要視することをお答えください。

| | 2018 年 | | |
|----------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| 経験を生かしたい | 39.3 | 41.9 | 35.4 |
| 自分の好きなことを生かしたい | 45.5 | 43.6 | 48.4 |
| 新しいことをはじめたい | 4.3 | 4.9 | 3.4 |
| 社会貢献をしたい | 8.4 | 7.9 | 9.1 |
| その他 | 2.5 | 1.7 | 3.7 |

(%)

3. 自立支援について

【自立支援について約 6 割が関心あるが理解不十分、丁寧な説明を希望】

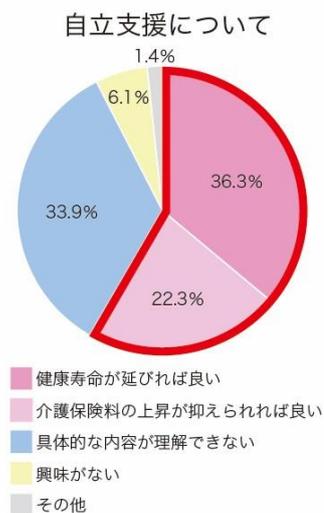
政府の戦略でもある健康寿命の延伸のなかに、自立支援に軸足を置いた介護を進めていくとあります。そこで、自立支援の取り組みへの関心・理解について伺いました。

・「健康寿命が延びればよい」、「介護保険料の上昇が抑えられればよい」と、**自立支援の取り組みに関心がある回答が合わせて約 6 割にせまる一方で「具体的な内容が理解できない」、「興味がない」という回答が約 4 割を占め、浸透は不十分であるという結果となりました。**(表 6-1、表 6-2)

・「自立支援」の取り組みに対する意向については「心身機能が向上するならやりたい」、「取り組みの内容に納得できればやりたい」を合わせて約 8 割となり、条件付きではあるものの、取り組みに対しては期待が表れる結果となりました。(表 7-1、表 7-2)

・「自立支援」に力を入れている高齢者住宅に約 7 割の方が興味を示しました。ただし、約半数は「内容がよく分からない」と回答しており、自立支援の取り組みについて丁寧な内容説明が求められていることがうかがえました。(表 8)

(表 6-1) Q.自立支援の取り組みをどう思いますか。



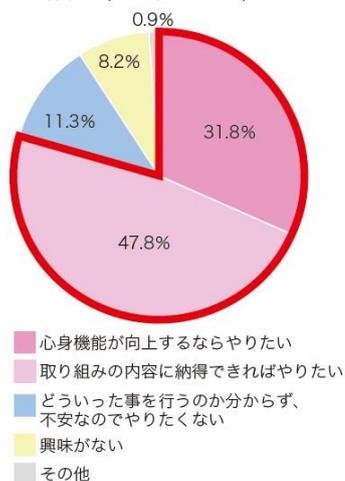
(表 6-2)

| | 2018 年 | | |
|-------------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| 健康寿命が延びれば良い | 36.3 | 41.9 | 28.1 |
| 介護保険料の上昇が抑えられれば良い | 22.3 | 19.9 | 25.9 |
| 具体的な内容が理解できない | 33.9 | 30.0 | 39.8 |
| 興味がない | 6.1 | 7.2 | 4.4 |
| その他 | 1.4 | 1.0 | 1.8 |

(%)

(表 7-1) Q.あなたは介護が必要になった場合に「自立支援」の取り組みを希望しますか。

自立支援の取り組みを希望するか



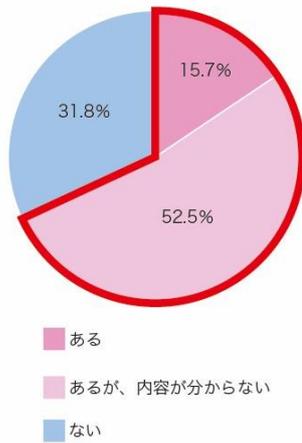
(表 7-2)

| | 2018 年 | | |
|----------------------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| 心身機能が向上するならやりたい | 31.8 | 33.0 | 30.1 |
| 取り組みの内容に納得できればやりたい | 47.8 | 45.3 | 51.6 |
| どういった事を行うのか分からず不安なのでやりたくない | 11.3 | 11.1 | 11.6 |
| 興味がない | 8.2 | 9.9 | 5.7 |
| その他 | 0.9 | 0.7 | 1.0 |

(%)

(表 8-1) Q.「自立支援」に力を入れている高齢者住宅に興味がありますか。

自立支援に力を入れる高齢者住宅について



(表 8-2)

| | 2018 年 | | |
|--------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| ある | 15.7 | 15.3 | 16.3 |
| あるが、内容がわからない | 52.5 | 49.6 | 56.8 |
| ない | 31.8 | 35.1 | 26.9 |

(%)

(表 9) Q.あなたが高齢者施設に入居する際、どのような暮らし方を望みますか。

| | 2018 年 | | |
|------------------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| できることは、自分でやりたい | 93.9 | 93.0 | 95.2 |
| 自分の状態に関わらず、全てスタッフに任せたい | 5.2 | 6.2 | 3.8 |
| その他 | 0.9 | 0.8 | 1.0 |

(%)

4. 家族と自身の介護について

【自身の介護について金銭面を不安視も、67.0%が「まだ何も考えていない」】

・将来、介護が必要になったときのことについて、67.0%が「まだ何も考えていない」と回答しました。2010年の質問結果の51.5%から増加傾向が見られました。男女別では、男性70.3%に比べ、女性60.0%と少なく、女性の方が介護に対する意識の高さがうかがえる結果となりました。(表10)

・自身の介護に対する不安について71.1%が「金銭的問題」を意識、次いで68.3%が「家族への負担」を感じると回答しました。周囲に介護経験者が少なく、介護を行う期間といった情報が不足しているため、金銭的な不安や家族への負担を意識した回答が多く見られました。(表11)

・不安に感じながらも具体的な準備をしない理由として、53.5%が「イメージがつかないから」と回答しました。2014年の調査時から最多回答であった「まだまだ先だと思っから」の結果と逆転しました。(表12)

(表10) Q. 将来自分に介護が必要になったときについてどのようにお考えですか。

| | | 具体的な、介護方法や施設まで家族に伝えている | 在宅介護か施設介護かを、家族に伝えている | 考えているが、まだ家族に伝えていない | まだ何も考えていない |
|-------|----|------------------------|----------------------|--------------------|------------|
| 2010年 | | 2.6 | 8.1 | 37.8 | 51.5 |
| 2011年 | | 1.6 | 6.5 | 26.2 | 65.8 |
| 2012年 | | 1.4 | 6.3 | 23.9 | 68.4 |
| 2013年 | | 1.3 | 6.4 | 24.0 | 68.3 |
| 2014年 | | 2.0 | 6.6 | 23.0 | 68.3 |
| 2015年 | | 1.6 | 6.2 | 24.6 | 67.6 |
| 2016年 | | 2.2 | 6.8 | 22.5 | 68.5 |
| 2017年 | | 2.6 | 6.9 | 21.6 | 68.9 |
| 2018年 | 全体 | 3.6 | 7.2 | 22.3 | 67.0 |
| | 男性 | 3.3 | 5.3 | 17.6 | 73.8 |
| | 女性 | 3.8 | 10.0 | 29.4 | 56.8 |

(%)

(表 11)Q.自身に介護が必要になった場合、不安を感じることをすべてお答えください。

| | | 金銭的問 題 | 家族への 負担 | 最期まで自 宅で過ごす ことができ るか | すぐに高齢 者施設等 に入居する ことができ るか | その他 | 特に不安 はない |
|--------|----|-----------|------------|-------------------------------|---------------------------------------|-----|-------------|
| 2018 年 | 全体 | 71.1 | 68.3 | 27.8 | 30.2 | 0.6 | 5.9 |
| | 男性 | 70.5 | 66.5 | 28.6 | 25.0 | 0.8 | 7.0 |
| | 女性 | 71.9 | 70.9 | 26.5 | 38.0 | 0.4 | 4.2 |

(%)

(表 12)Q.将来に不安を感じながらも、具体的に準備をしないのはなぜですか。

| | | イメージがつか ないから | まだまだ先だと思 うから | 子供にまかせ るか | わからない |
|--------|----|-----------------|-----------------|--------------|-------|
| 2011 年 | | 39.4 | 42.9 | 2.0 | 15.6 |
| 2012 年 | | 39.7 | 45.1 | 1.5 | 13.7 |
| 2013 年 | | 37.8 | 43.5 | 1.7 | 17.0 |
| 2014 年 | | 45.5 | 36.1 | 1.9 | 16.5 |
| 2015 年 | | 45.8 | 35.3 | 2.4 | 16.4 |
| 2016 年 | | 43.5 | 36.1 | 1.4 | 18.9 |
| 2017 年 | | 46.0 | 35.6 | 1.5 | 17.0 |
| 2018 年 | 全体 | 53.5 | 30.7 | 1.0 | 14.8 |
| | 男性 | 53.4 | 31.5 | 0.7 | 14.4 |
| | 女性 | 53.7 | 29.5 | 1.5 | 15.3 |

(%)

【「介護離職ゼロ」半数が内容を理解】

・政府の掲げる「介護離職ゼロ」について半数が内容を正しく理解しているという結果となりました。半数が介護離職について正しく内容を理解していなかった 2016 年から結果が逆転しました。(表 13)

・介護と仕事の両立について「できると思う」と答えた方は調査開始以来 5 年連続で 1 割以下という結果となりました。(表 14)

一方で、介護休業制度については「知らない」、「聞いたことはあるが内容まではわからない」という回答が合わせて約 8 割となりました。「仕事」と「介護」の両立に不安を覚えながらも「介護休業制度」の利用は身近ではないということがうかがわれました。(表 15)

(表 13) Q.あなたは、政府が掲げる「介護離職ゼロ」についての内容をどのように理解されていますか。

| | 2016年 | 2017年 | 2018年 | | |
|-----------------------------------|-------|-------|-------|------|------|
| | | | 全体 | 男性計 | 女性計 |
| 仕事と介護の両立ができず、介護のために離職する人をなくすための政策 | 44.9 | 43.3 | 50.4 | 44.1 | 49.5 |
| 介護職員の離職を防いで、介護業界の人手不足を解消するための政策 | 24.0 | 21.8 | 19.2 | 22.4 | 20.6 |
| わからない | 31.1 | 34.9 | 30.4 | 33.5 | 29.9 |

(%)

(表 14) Q.家族を介護する必要が出た場合、「仕事」と「介護」を両立できると思いますか。

| | | できると思う | できないと思う | わからない |
|-------|----|--------|---------|-------|
| 2014年 | | 7.6 | 55.5 | 36.9 |
| 2015年 | | 9.7 | 58.1 | 32.2 |
| 2016年 | | 5.7 | 62.9 | 31.4 |
| 2017年 | | 8.6 | 58.5 | 32.9 |
| 2018年 | 全体 | 8.4 | 59.0 | 32.7 |
| | 男性 | 8.1 | 58.2 | 21.5 |
| | 女性 | 8.9 | 60.3 | 11.1 |

(%)

(表 15) Q. あなたは、介護休業制度についてご存知ですか。

| | 2016年 | 2017年 | 2018年 | | |
|----------------------|-------|-------|-------|------|------|
| | | | 全体 | 男性 | 女性 |
| 内容を知っている | 17.4 | 21.6 | 21.5 | 24.1 | 17.7 |
| 聞いたことはあるが、内容まではわからない | 53.7 | 49.2 | 51.4 | 51.6 | 51.0 |
| 知らない | 28.8 | 29.2 | 27.1 | 24.3 | 31.3 |

(%)

【エンディングノート、93.5%が作成していない】

・エンディングノートの作成について 93.5%が作成していないと回答しました。昨年に続き 9 割以上が作成していないという結果となりました。(表 16)

・作成しない理由として 41.7%が「何を書けばよいか分からない」と回答し、エンディングノートの認知度の低さがうかがえる結果となりました。(表 17)

(表 16) Q.あなたは、自身の終末期や死後に備えて自身の希望を書き留めておく「エンディングノート」を作成していますか。

| | | はい | いいえ |
|--------|-----|-----|------|
| 2017 年 | | 3.8 | 96.2 |
| 2018 年 | 全体 | 6.5 | 93.5 |
| | 男性計 | 5.4 | 94.6 |
| | 女性計 | 8.0 | 92.0 |

(%)

(表 17) Q.作成していない方に質問です。なぜ作成していないのですか。

| | 2018 年 | | |
|--------------------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| 必要がないから | 23.8 | 28.6 | 16.6 |
| エンディングノートがどういったものか知らないから | 8.3 | 10.7 | 4.6 |
| すでに自身に必要なことは家族に伝えているから | 11.0 | 7.6 | 16.2 |
| エンディングノートと遺言書の違いが分からないから | 5.8 | 5.6 | 5.9 |
| 友人知人もまだ書いていないから | 9.4 | 7.6 | 12.2 |
| 何を書けばよいか分からないから | 41.7 | 39.9 | 44.5 |

(%)

【介護は配偶者に相談する人が増加】

・両親や義父母など「家族の介護」の相談先については「役所などの公共機関」、「病院」が昨年から半減した一方で、**配偶者や子供に相談する(した)方は増加**し、介護を「家族の問題」として捉えている傾向があることがわかりました。(表 18-1)

・男女ともに「配偶者」に相談する(した)割合が最も高く、62.8%の方が回答しました。年代ごとに男女を比べると、男性は年齢とともに配偶者に相談する割合が増加し、60 代以上では約 8 割に上る結果となりました。(表 18-2)

・相談相手を選択した理由として、女性は「専門家の意見を聞きたい」という回答が男性の 2 倍という結果が出ました。女性は男性に比べて、家庭以外にコミュニティを持ち、友人や役所などの公共機関、病院といった多方面で情報収集や相談をすることが分かりました。(表 19)

(表 18-1) Q.あなたは、家族の介護について誰に相談しますか(しましたか)。

| | 2017 年 | 2018 年 | | |
|-------------------|--------|--------|------|------|
| | | 全体 | 男性 | 女性 |
| 配偶者 | 55.4 | 62.8 | 61.9 | 54.6 |
| 兄弟姉妹 | 33.8 | 19.1 | 22.9 | 32.3 |
| 子供 | 14.9 | 27.8 | 15.9 | 30.2 |
| 友人 | 9.8 | 8.2 | 4.0 | 17.2 |
| 会社の同僚 | 3.5 | 1.2 | 2.1 | 2.7 |
| 役所などの公共機関 | 26.3 | 12.0 | 17.0 | 22.5 |
| 病院 | 18.6 | 7.1 | 11.5 | 15.0 |
| その他 | 4.8 | 1.6 | 3.4 | 2.8 |
| 相談できる人はいない(いなかった) | 14.8 | 16.5 | 18.2 | 11.4 |

(%)

(表 18-2)



(表 19) Q.相談相手に【前問の選択内容】を選んだ理由をお答えください。

| | 2018 年 | | |
|---------------------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| 家族が一番安心だから | 49.7 | 53.6 | 44.3 |
| 家族の問題だから | 35.7 | 34.1 | 37.9 |
| 外部の人に、他人の家庭事情など分かるはずがないから | 2.6 | 2.8 | 2.3 |
| 専門家の意見が聞きたいから | 8.9 | 6.5 | 12.2 |
| 家族は信用できないから | 0.6 | 0.3 | 0.9 |
| 家族と呼べる人はいないから | 1.1 | 1.5 | 0.5 |
| その他 | 1.5 | 1.2 | 1.8 |

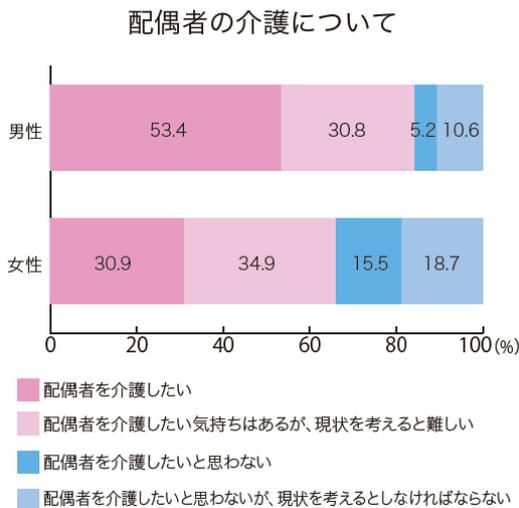
(%)

【夫を介護するのは現実的に厳しい、自信がない】

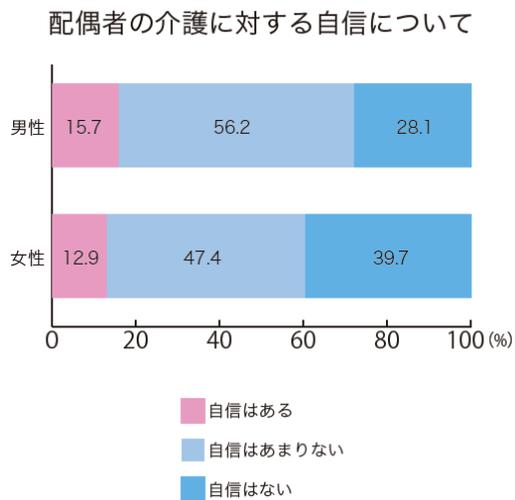
・「配偶者の介護」への意向については、男女別に見ると、配偶者を介護したいという回答は、男性が 84.2%に対し、女性は 65.8%と差が出る結果となりました。女性は、配偶者の介護を現実的な問題と捉え、体格差といった具体的な難しさを想定していることがうかがえました。(表 20-1、表 20-2)

・男女ともに半数以上の方が介護への意向を示した一方で、自信の有無に関しては「自信はない」、「自信はあまりない」と回答した方が、男性 84.3%、女性 87.1%となり、介護をしたい意向と乖離のある結果となりました。(表 21-1、表 21-2)

(表 20-1)



(表 21-1)



(表 20-2) Q.あなたは、配偶者を介護したいと思いますか。

| | | 配偶者を介護 したい | 配偶者を介護 したい気持 ちはあるが、現 状を考えると難 しい | 配偶者を介護 したいと思わ ないが、現状を 考えるとしなけ ればならない | 配偶者を介護 したいと思わ ない |
|-------|----|---------------|---|--|------------------------|
| 2011年 | | 45.6 | 27.9 | 19.8 | 6.6 |
| 2012年 | | 46.7 | 28.6 | 17.4 | 7.4 |
| 2013年 | | 45.1 | 30.8 | 17.6 | 6.5 |
| 2014年 | | 44.5 | 30.3 | 16.9 | 8.3 |
| 2015年 | | 45.1 | 31.5 | 15.3 | 8.0 |
| 2016年 | | 44.3 | 31.2 | 15.4 | 9.1 |
| 2017年 | | 48.8 | 27.5 | 14.5 | 9.2 |
| 2018年 | 全体 | 44.5 | 32.4 | 13.8 | 9.3 |
| | 男性 | 53.4 | 30.8 | 10.6 | 5.2 |
| | 女性 | 30.9 | 34.9 | 18.7 | 15.5 |

(%)

(表 21-2) Q.配偶者を介護できる自信はありますか。

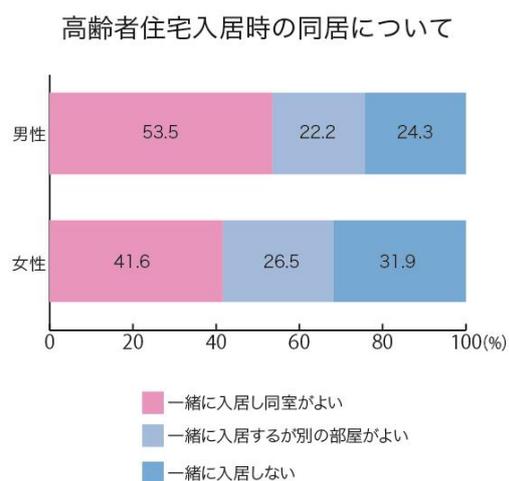
| | | 自信はある | 自信はあま りない | 自信はない |
|-------|----|-------|--------------|-------|
| 2012年 | | 17.8 | 56.1 | 26.1 |
| 2013年 | | 15.2 | 58.5 | 26.3 |
| 2014年 | | 13.6 | 58.1 | 28.4 |
| 2015年 | | 12.0 | 55.0 | 33.0 |
| 2016年 | | 11.6 | 52.7 | 35.6 |
| 2017年 | | 14.7 | 50.6 | 34.7 |
| 2018年 | 全体 | 14.5 | 52.7 | 32.8 |
| | 男性 | 15.7 | 56.2 | 28.1 |
| | 女性 | 12.9 | 47.4 | 39.7 |

(%)

【高齢者住宅に入居する際、男性は夫婦同室を希望】

・高齢者住宅に入居する際、男性は半数以上が同室を望むのに対し、女性は約4割に留まり、男女間で差が見られました。また、女性の3割以上が一緒に入居しないと回答し、夫婦であってもお互いの自由な時間を確保したいという思いがうかがわれる結果となりました。(表 22-1、表 22-2)

(表 22-1) Q.夫婦のうちどちらかが介護が必要になった場合、高齢者住宅と一緒に入居しますか。その場合、同室を希望しますか。



(表 22-2)

| | 2018 年 | | |
|-----------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| 一緒に入居し同室がよい | 48.7 | 53.5 | 41.6 |
| 一緒に入居するが別の部屋が良い | 23.9 | 22.2 | 26.5 |
| 一緒に入居しない | 27.4 | 24.3 | 31.9 |

(%)

5. ロボットについて

【女性は身体介護だけでなく、生活全体の手助けを期待】

・介護ロボットとして、男女ともに半数が身体に触れる機器をイメージしているという結果となりました。(表 23)

・介護される立場になった場合に使いたいロボットについて、男女別に見ると、女性は「会話ができるコミュニケーションロボット」、「身体介護以外の(掃除・洗濯等)日常生活支援ロボット」、「見守りセンサー」の項目について男性より割合が高く、ロボットに身体介護だけでなく生活全体の手助けをロボットに期待していることがうかがえました。(表 24)

(表 23) Q.「介護ロボット」と聞いてイメージするものをすべてお答えください。

| | 2018 年 | | |
|---------------------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| 会話ができるコミュニケーションロボット | 31.1 | 28.5 | 34.9 |
| 介護される人の身体の動きをサポートする補助機器 | 53.2 | 53.6 | 52.6 |
| 介護する人の身体負担を軽くする補助機器 | 54.2 | 52.6 | 56.6 |
| 身体介護以外の(掃除・洗濯等)日常生活支援ロボット | 17.9 | 18.4 | 17.1 |
| 見守りセンサー | 27.9 | 23.0 | 35.1 |
| 介護スタッフの事務作業を軽減するデータ記録システム | 10.3 | 8.1 | 13.5 |
| その他 | 0.2 | 0.3 | 0.2 |
| 特になし | 13.7 | 15.7 | 10.8 |

(%)

(表 24) Q.あなたが、今後介護される立場になった場合、どんなロボットを使いたいですか。あてはまるものをすべてお答えください。

| | 2018 年 | | |
|---------------------------|--------|------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 |
| 会話ができるコミュニケーションロボット | 32.7 | 28.4 | 39.2 |
| 介護される人の身体の動きをサポートする補助機器 | 66.8 | 68.2 | 64.7 |
| 身体介護以外の(掃除・洗濯等)日常生活支援ロボット | 41.4 | 39.2 | 44.8 |
| 見守りセンサー | 27.1 | 23.1 | 33.1 |
| その他 | 1.2 | 1.5 | 0.8 |

(%)

【介護ロボットは、過去最高 84.3%が肯定的】

・ロボットによる介護については、「推奨されていれば受けてもよい」(71.2%)、「積極的に受けたい」(13.1%)を合わせると、**2011年の調査開始以来最高の 84.3%**の方が介護ロボットについて肯定的な考えを持っていることがわかりました。(表 25-1、表 25-2)

・前問の回答理由については、例年通り「ロボットは気を遣わないから」(51.3%)、「本当は人の手が良いが気を遣うから」(27.2%)と合わせて 78.5%になり、人の手による介護に対して心理的負担を感じる様子が見えなくなりました。ロボットによる身体介護を受けたくない理由としては「**人の手で介護されたいから**」が調査開始以来、初めて半数を下回りました。(表 26)

(表 25-1) Q. 今後介護される立場になった場合、介護ロボットによる身体介護を受けたいですか。

| | ロボットによる 身体介護を受 けたい | ロボットが推奨 されていれば 受けてもよい | ロボットによる 身体介護は受 けたくない | その他 |
|-------|--------------------------|-----------------------------|----------------------------|-----|
| 2011年 | 7.4 | 71.6 | 21.1 | 0.0 |
| 2012年 | 7.2 | 69.2 | 20.6 | 3.0 |
| 2013年 | 8.8 | 71.5 | 17.5 | 2.2 |
| 2014年 | 10.4 | 63.9 | 22.9 | 2.7 |
| 2015年 | 9.4 | 69.0 | 19.3 | 2.3 |
| 2016年 | 9.9 | 67.8 | 20.4 | 1.9 |
| 2017年 | 8.4 | 71.8 | 17.3 | 2.5 |
| 2018年 | 13.1 | 71.2 | 14.7 | 1.0 |

(%)

(表 25-2)

あなたが今後介護される立場になった場合、
介護ロボットによる身体介護を受けたいですか。



(表 26) Q. 今後介護される立場になった場合、介護ロボットによる身体介護について、【前問の選択内容】とお答えになったのはなぜですか。

| | ロボットが推奨されていれば受けてもよい・積極的に受けたい | | | | ロボットによる身体介護は受けたくない | | | |
|-------|------------------------------|------------------|--------------------|-----|--------------------|-------------------|-------------------|-----|
| | ロボットは気を遣わないから | 本当は人の手が良いが気が遣うから | ロボットのほうが安心・安全そうだから | その他 | 人の手で介護されたいから | ロボットが安心・安全に思えないから | ロボットは冷たいイメージがあるから | その他 |
| 2012年 | 52.9 | 31.1 | 9.4 | 6.7 | 54.5 | 25.9 | 13.7 | 5.9 |
| 2013年 | 54.0 | 28.5 | 10.1 | 7.4 | 64.1 | 17.5 | 15.2 | 3.2 |
| 2014年 | 47.7 | 29.8 | 13.2 | 9.3 | 56.0 | 26.4 | 15.1 | 2.5 |
| 2015年 | 52.7 | 26.5 | 16.1 | 4.7 | 64.9 | 23.8 | 9.2 | 2.1 |
| 2016年 | 50.7 | 29.1 | 11.7 | 8.5 | 55.7 | 29.2 | 12.6 | 2.4 |
| 2017年 | 53.7 | 24.2 | 13.2 | 9.0 | 60.3 | 28.5 | 9.3 | 1.9 |
| 2018年 | 51.3 | 27.2 | 13.3 | 8.1 | 46.9 | 33.3 | 9.9 | 9.9 |

(%)

(表 27) Q. 日本の働き手人口が減少する中、政府は、質の高く効率的な介護サービスの提供を求め、介護ロボットの開発・普及を進めていますが、導入費用についてのあなたの考えに最も近いものをお答えください。

| | | 日々の暮らしが充実するのであれば払う | 介護ロボットの導入は必要だと感じるので払う | 自費であれば払いたくない | ロボットは安全性に不安があるので払いたくない |
|-------|----|--------------------|-----------------------|--------------|------------------------|
| 2018年 | 全体 | 40.6 | 23.3 | 29.2 | 6.9 |
| | 男性 | 40.1 | 26.6 | 26.9 | 6.4 |
| | 女性 | 41.4 | 18.5 | 32.5 | 7.6 |

(%)